

# 鉄人 NEWS

THE TETSUJIN NEWS

株式会社東部がお届けするインフォメーション・レター

発行所 株式会社東部鉄人ニュース事務局  
 神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4  
 TEL.042-764-4128  
 FAX.042-762-9593  
 編集 鈴木明子  
 http://www.tobu21.co.jp

Vol.66  
 2016  
 2月号

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

## 実践に強い!貫入性能No.1 『e-pile next』

### 某共同住宅新築工事

工事名	某共同住宅新築工事
施工地	埼玉県八潮市
用途	店舗、共同住宅
構造	鉄骨造(S)
階数	地上3階



杭の種類 Φ508.0mm Dw750mm L=56.5m 10set 施工機械 DHJ-45

本物件は、県道沿いに面した共同住宅新築工事の基礎杭工事です。  
 40m付近の中間層を打ち抜き、58.0mの安定した支持層まで確実に到達させる事が課題となりました。  
 計画当初、先端羽根付鋼管杭での杭施工は不可能ではないかと懸念されていましたが、e-pile next工法の菱形孔による抜群の掘削性能と、それを実証する施工実績等も考慮いただき、ご依頼を頂きました。  
 杭の打設も所定深度まで貫入させる事ができました。  
 元請け様には敷板養生等ご協力頂き、安全且つ無事に工期内で工事を完了することが出来ました。  
 ☆ご採用いただき、誠に有り難うございました。

## 人に、地球に、やさしい再生可能な「循環型杭工法」 現場で生まれた杭はやはり実践にも強かった。

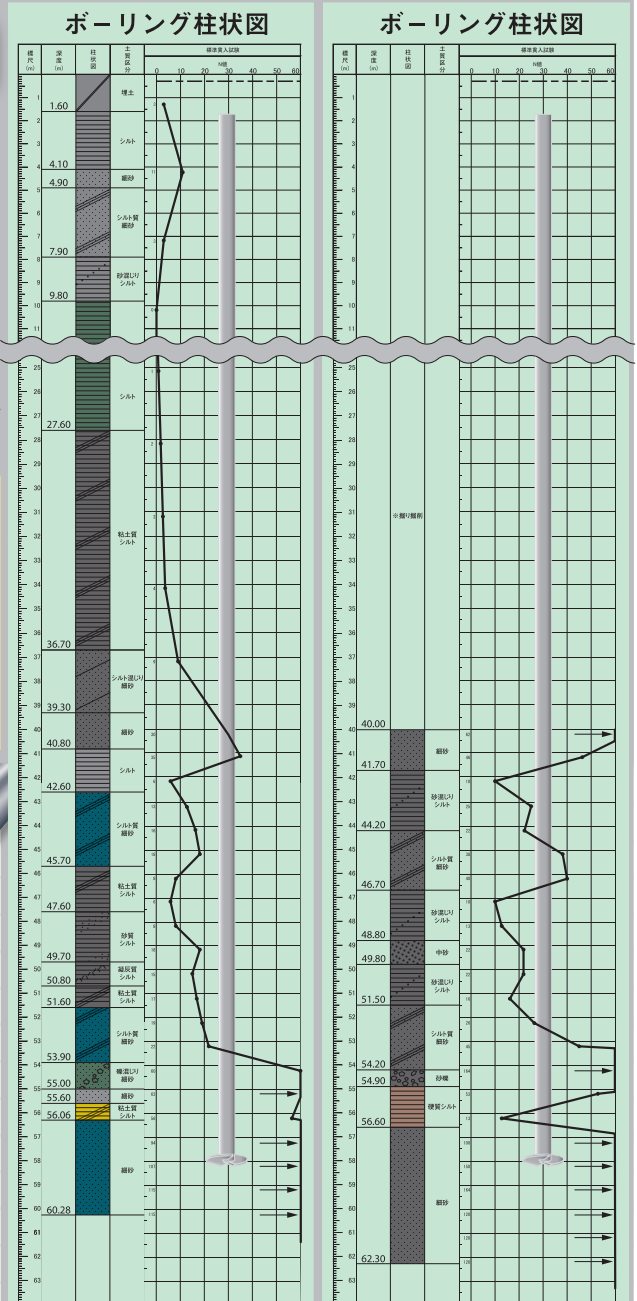
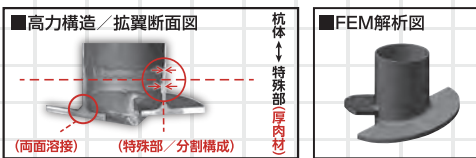


建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

### 全ての鍵は杭先端にあり

杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を...  
 「菱型穴」により解決しました。
- 拡翼変形の問題を...  
 「特殊部」により解決しました。
- コストの問題を...  
 「自社施工」により解決しました。



鋼管杭基礎総合メーカー  
**Tobu 株式会社 東部**  
<http://e-pile.com>

■ 本社  
 〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1507-5  
 TEL.042-762-4739 FAX.042-762-8971

■ 地盤評価センター  
 TEL.042-785-2811 FAX.042-785-2810

■ 施工管理センター  
 TEL.042-764-4122 FAX.042-762-8975

■ 本店/ 経理室  
 〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4  
 TEL.042-764-4128 FAX.042-762-9593

■ 相模原機材センター  
 〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1285-1  
 TEL.042-785-2812 FAX.042-785-2813

■ 東京営業所  
 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-1-2 朝日生命幡ヶ谷ビル 6階  
 TEL.03-3376-0123 FAX.03-3376-0124



## 2016年(平成28年)4月1日から電力の小売全面自由化になります。

※詳しくは資源エネルギー庁ホームページをご確認ください。

### ○ 電力の小売全面自由化とは

これまで家庭や商店向けの電気は、各地域の電力会社(東京電力、関西電力等)だけが販売しており、家庭や商店では、電気をどの会社から買うか選ぶことはできませんでした。しかし、2016年(平成28年)4月1日以降は電気の小売業への参入が全面自由化されることにより、家庭や商店も含む全ての消費者が、電力会社や料金メニューを自由に選択できるようになります。つまり、ライフスタイルや価値観に合わせ、電気の売り手やサービスを自由に選ぶようになります。

### 電力の小売自由化の歴史

電力の小売自由化は、工場などの大口消費者については、すでに実現しています。最初の小売自由化は、2000年3月に始まりました。はじめは、「特別高圧」区分の大規模工場やデパート、オフィスビルが電力会社を自由に選ぶことができるようになり、新規参入した電力会社「新電力」からも電気を購入することが可能になりました。その後、2004年4月・2005年4月には、小売自由化の対象が「高圧」区分の中小規模工場や中小ビルへと徐々に拡大していきました。そして、2016年4月1日からは、「低圧」区分の家庭や商店などにおいても電力会社が選べるようになります。

### 電力の小売全面自由化でどう変わる?

多彩な料金プラン・サービスが登場。

#### ■ 時間帯別料金など、ライフスタイルに合わせた料金メニュー。

たとえば、時間帯別の電気料金など、多様な料金メニューの中から自分のライフスタイルに合わせたプランを選ぶことができるようになります。

#### ■ 再生エネルギー中心のサービス。

太陽光、風力、水力、地熱などの再生可能エネルギーを中心に発電を行う会社から、電気を購入することも可能になります。

#### ■ 省エネ診断、セット割などの新しいサービス。

事業者の創意工夫によって、電気とガスなどのセット割引やポイントサービス、家庭の省エネ診断サービスなど、多様な新しいサービスの登場が期待されます。

#### ■ 電気の地産地消。

近くの自治体が運営する事業者から電気を買うなど、電気の地産地消も可能になります。また、お住まいのエリア外で発電された電気の購入も可能となります。

## ワンポイント 健康コラム

### 小児期に多く発症する熱性けいれん

熱性けいれん

生後6カ月から5歳ごろまで、特に1歳代の小児が発熱時(38℃以上)に引き起こすけいれんです。小児期のけいれんのなかで最も多く日本では小児の約7%は熱性けいれんを経験すると報告されています。

インフルエンザや突発性発疹症等は熱性けいれんを引き起こしやすい病気です。髄膜炎(ずいまくえん)や脳炎などの中枢神経系感染症、代謝の病気、嘔吐・下痢などの電解質異常などのような直接原因は現在のところ不明ですが、遺伝的素因や発育脳(乳幼児にみられる)に発熱が加わって発症するものと推察されています。

#### 症状の現れ

発熱後24時間以内にけいれんを引き起こすことがほとんどです。

多くは意識消失とともに全身をつつぱり、そのあとに四肢を震わせて、けいれんが数分間みられます。けいれんは通常数分間で止まり、決して危険なものではありませんが、まれに15分以上持続する場合、1日に2回以上繰り返す場合は注意が必要で、入院することも必要となります。

熱性けいれんのほとんどは生涯を通じて1回のみことが多いのですが、再発することも30%程度みられ、3回以上繰り返されることも10%前後あります。熱が上がってくる時に痙攣を起こすことが多いので、発熱の初日に見られます。39℃の高熱が3日以上続いているような場合は痙攣は起こりにくいです。

#### けいれんが起きたら。

初めてけいれんがおこった時はびっくりしてどうしてよいか分からないのが普通でしょう。「まず落ち着いて、よく見る」ことが重要ですが、実際には難しいと思います。ほとんどの場合けいれんは数分で止まりますし、外からの働きかけで早く止まるものでもありません。

- ① 衣服をゆるめて顔を横に向けて、もし吐いているようなら口や鼻のまわりを拭いてあげる。
- ② 舌をかまないように物をくわえさせることは全く無用で、かえって口の中を傷つけることがある。
- ③ 診断や今後の治療の参考のためにも、けいれんの形や持続時間、体温を

確認する。

何度もおこしているとご家族も慣れてきますが、初めてのときは発作がおさまっても救急車を呼ぶことが多く、これはやむを得ないかと思えます。初めての発作のほかに、早めの受診が必要なのは次のようなときです。

- ① けいれんが10分以上続くか、何回も繰り返す。
- ② 体の一部だけのけいれんや左右の差が強いとき。
- ③ けいれんのあとに意識が回復しなかったり、体の動きが悪いとき。

熱性けいれんの予防を行うかどうかは、痙攣の頻度、持続時間、年齢などで変わってきますので、医療機関で相談しましょう。

## 経理マンが行く

ひび・あかぎれ

早いものでもう2月になります。そして寒さや乾燥のますます厳しい季節になってきました。冬は、どうしても皮膚の乾燥や痒みなどの様々な皮膚トラブルに悩まされがちですね。今回は冬に代表的な「ひび・あかぎれ」に関して調べてみました。

冬になると気温が下がり、空気が乾燥します。この事で皮膚の表面から水分が失われ、汗をかく機会が減るために、汗と皮脂が混ざりあって出来る「天然の保護クリーム」とも言うべき皮脂膜が作られにくくなります。その結果、肌の表面はカサカサに…。

このときに水仕事を多くしたり、寒さにさらされる事でさらに乾燥が進んでひびやあかぎれを引き起こします。また、気温の低下によって血行が悪くなると、肌細胞に十分な栄養が行き渡らなくなり肌は元気を失い、自身の力で肌細胞を再生し、傷等を修復することが出来ない状態に陥ってしまいます。「ひび・あかぎれ」が体の末端にある手指や足、耳に出来やすいのは、こうした血行不良と関連している為です。

一般的には、水仕事や洗剤を繰り返し使用する調理師や主婦、シャンプー等などに触れる機会が多い美容師・理容師などの方々に患者が多いとされています。

また、加齢による肌の保水力低下や水虫も原因の一つとされています。

ひび割れとあかぎれの違いは、皮ふが割れる程度の比較的軽いものを「ひび」、深く割れて皮膚の赤い部分(真皮層)が見え、炎症や出血したりしているものを「あかぎれ」と呼んで区別しているようですが原因はやはり乾燥です。

肌が乾燥してくると、全体的にカサカサして白い粉をふいた状態になります。この段階で「乾皮症」といい、乾燥肌とも呼ばれています。乾皮症をそのまま放っておくと、角質層の脂質や水分はますます奪われ、肌の表面にある溝に沿って亀裂が生じ、そして赤くただれ、強いかゆみを伴います。これが「ひび割れ」です。

ひび割れがさらに悪化して、肌の表皮だけでなく真皮層にまで深く亀裂が生じた状態を「あかぎれ」といい、割れた部分が赤く見えるのは真皮層に血管が通っているからで、そのために傷ついた傷口から血がにじみ出てきます。あかぎれになると、傷口が痛み、水にさらわるとにじみたりして、日常生活を送る上でもかなりつらい状態となります。

では出来てしまったひび・あかぎれをどうすればいいのでしょうか。

ひび・あかぎれの主な原因は低温と乾燥ですから、水仕事のあとはグリセリン、血行を促進するビタミンE(トコフェロール酢酸エステル)などが含まれた軟膏を塗り、外出の際には手袋で保温するといでしょう。皮膚が乾燥しやすいという人は、水仕事のときに手袋をしたり、入浴の際にしっかりと手足の先まで温めるとひび・あかぎれができにくくなります。さらに悪化しないように絆創膏を貼り、水や空気に触れないように気をつけましょう。

もっと深刻なあかぎれの場合は、別の病気も考えられますから皮膚科でしっかり診察を受けましょう。毎日の生活の中で以上を習慣として心がければ、「ひび・あかぎれ」はもちろん、さまざまな皮膚トラブルを防止できるかもしれません。冬だからこそ健康で美しい肌を維持しましょう。